



介護老人保険施設 ふれあいの里道海

## 地域の方々との 信頼関係をさらに深めたい

社会福祉法人道海永寿会

理事長 山崎 一幸さん

東北大学の川島隆太教授監修のニンテンドーDSの「脳トレ」シリーズは、一大ブームを巻き起こした。国内で九〇〇万本の大ヒット。今年の夏には3Dを使った新シリーズが発売される予定。「学習療法」の本も出版され、また認知症の方対象のドリルなども広く活用されている。

その川島教授と「学習療法」の共同研究を行ってきたのが、大川市の社会福祉法人道海永寿会である。理事長の山崎一幸さんにお話を伺った。

川島教授と永寿会の出会いは、公文式がきっかけ。永寿会では、公文式の低学年用の教材を使い、認知症の方の機

能改善の試みを続けていた。「加速度的に進行する認知症に、当時は手の打ちようがない状況でした。しかし、脳に刺激を与えたら何か変化が出るのではないか、という直感だけで、明確な方法論もなく、公文式教材を使ってみましたね。ただ、しばらくして学習者に明らかに変化が見られるようになったんです。」

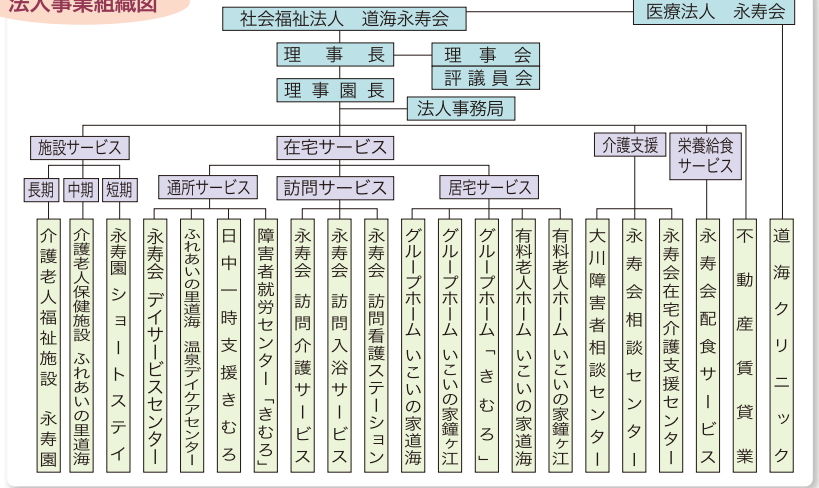
その後、十年ほどして、公文式の事務局の紹介で、当時障害児の研究をしていた、東北大学川島教授と出会うことになる。こうして川島教授の研究フィールドとして、永寿会は科学的に「学習療法」に取り組むようになった。数千





教材

法人事業組織図



万円の予算が付く、国家プロジェクトである。認知症のお年寄りに一日に二十分、「4+3」と言った簡単な計算、童話の読み書きをしても良かった。こうした試みが、脳内の赤外線反射や磁場の測定により、強く脳を活性化させることが確認された。認知症の周辺症状が改善していった。落ち着きが出て、短期記憶が改善していった。また、おむつが不要になったり、家族とのコミュニケーションがとれるようになった。そして笑顔が全く出なかった方々が、ドリル教材をやって二週間、三週間で笑顔が出てくる。そのうち言葉が出てくるようになった。「私たちがものすごく印象強く思っているのは、三年間以上寝たきりの状態で施設に入っている



寝たきりの方との学習療法

て、ほぼ植物人間のような状態だった極めて重度のアルツハイマーの方が、言葉のトレーニングを始めてから、これは時間が経ったからではなく、実際に机に座って学習することができるようになりました。それができるようになってから、歩行訓練ができて、一旦ご自宅に帰るところまで回復させることができたのです。」素晴らしい事例だ。

こうした研究成果が世界的に注目を集めることになる。またマスコミに大きく取り上げられ、「ニンテンドーDS「脳トレ」の発売にもつながっていった。永寿会の介護スタッフの意識も変わったという。意欲的に介護に取り組むようになった。「認知症の方の可能性を信じて、患者としっかりと向き合うようになっていきます。残存機能を引き出すために積極的に取り組むようになりましたね。ケアの質を改善していく姿勢もあります。そして達成感も感じています。」

現在ではデイサービス、入所者の方、約二〇〇名の方が学習療法に取り組んでいる。さて、話題を変え、永寿会のコンセプトを聞いて見た。それは「ある程度元気なお年寄りの介護からターミナルケア（亡くなるまで）一貫した介護サービスができること」。

その言葉通り、事業の種類は豊富だ。ざっと紹介すると、介護老人福祉施設永寿園、介護老人保健施設「ふれあいの里道海」、通所リハビリテーション「ふれあいの里道海温泉ケアセンター」、認知症対応型共同生活介護「グループホームいこいの家」、特定施設入所者生活介護「有料老人ホームいこいの家」、ホームヘルプ、「永寿会訪問介護サービス」、訪問看護ステーション、入浴サービス、居宅介護、永寿会相談センター、永寿会在宅介護支援センター、配食サービス、障害者就労支援センター「きむろ」、関連事業所 医療法人永寿会 道海クリニック、ということになる。



学習状況

きには、気楽に訪れていただける存在になっていきたいですね。学習療法を含めいろいろなサポートをさせていただきたいと思えます。そして、もう一つは、医療面の拡充です。道海クリニックを持っていきますが、まだ規模が小さいのです。終末期には、残念ながら大きな病院に移転してもらう必要があります。それは、患者さんに負担を掛けることでもあります。お年寄りの介護からターミナルケアというコンセプトを十分に実現するために、この面を充実させていきたいと思っています。いま二人の息子が医師をしていますので、今後協力し合いながら、事を進めていきたいと思っています。」

※学習療法は東北大学・川島隆太教授と公文教育研究会の登録商標です。